

特集

あたたかな認知症ケア

重い認知症であっても感じる心をもっています。ゆえに認知症に対する周囲の無理解は患者を傷つけ、不安を増強させ、落ち着かなくさせます。若年性認知症患者が直面する職場の問題、認知症患者が自尊心をもってその人らしく生き続けていくための地域の支援について、医師・認知症看護認定看護師の取り組みを特集します。

浅川雅晴／大澤誠／岡村真由美／宮永和夫

■研究報告

中高年の広汎性発達障害者の援助（Ⅰ） 細川雅人

■実践報告

訪問看護ステーションにおける多機能化——交流会の4年間の試みから考える 棚橋さつきほか

■訪問ほっとらいん

北欧の心身相関の思想にふれる——スウェーデンの医療施設、ヴィダルクリニーケン 濱口豊太

■連載

マグネットステーションインタビュー 木村憲洋／訪問看護時事刻々 石田昌宏／高齢者虐待にどう対応するか 和田忠志／ヒト・モノ・バをつなぐ認知症ケア 山崎正人／ほんとの出会い 岡田真紀／100歳までの道のり 城美奈子／お母さんといっしょ 横谷順子／自宅で死んでみませんか 皆川夏樹

編集後記

●今号の特別記事は看護師免許を取得したばかりの新卒看護師を3年間で訪問看護ができるように育成する、という取り組みをされている小西氏によるものです。訪問看護師の増加を目的としたシステムではありませんが、このような取り組みが全国的に広まり、訪問看護がより身近なものとなることをつい期待してしまいます。なお、マグネットステーションインタビューの対象は、そのシステムで2年間の病院研修を終えた研修生を受け入れているステーションです。実際に研修生を受け入れての感想もご覧ください。……………富岡
●医療的ケアの必要な子どもを家族（主に母親）だけでみていくのは無理があります。果敢に「ベビー専門」のステーションを立ち上げた吉野さん、徐々に人工呼吸器をはずし自発呼吸をうながしていった下地さん、小児の訪問看護経験を活かして地域で活躍する山西さん、研究報告として夜間滞在型の訪問看護についてまとめた生田論文から、あらためて看護の奥深さと訪問看護師の底力を知らされました。……………伊藤

訪問看護と介護 第14巻 第2号（通巻152号） 2009年2月15日発行（毎月1回15日発行）

〒113-8719 東京都文京区本郷1-28-23 Published by IGAKU-SHOIN Ltd. 1-28-23 Hongo, Bunkyo-ku, Tokyo©2009, Printed in Japan

1部定価1,260円（本体1,200円＋税5%） 年ごめ予約購読料13,200円（年間12冊，税込，送料弊社負担）

電子ジャーナル閲覧オプション Medical Finder パーソナル付 18,200円（税込，送料弊社負担）

発行：株式会社 医学書院／代表者：金原 優／販売部：03-3817-5659／社内案内：03-3817-5600

「訪問看護と介護」編集室：直通03-3817-5787 FAX 03-5804-0485 担当：富岡・伊藤・早田

Eメール houmon@igaku-shoin.co.jp 医学書院ホームページURL <http://www.igaku-shoin.co.jp>

本誌に掲載する著作物の複製権・翻訳権・上映権・譲渡権・公衆送信権（送信可能化権を含む）は（株）医学書院が保有します。

JCLS <（株）日本著作出版権管理システム委託出版物>

本紙の無断複写は著作権法上での例外を除き禁止されています。複写される場合は、そのつど事前に（株）日本著作出版権管理システム（電話03-3817-5670、FAX03-3815-8199）の許諾を得てください。本誌掲載論文・記事のタイトル頁最下段に記された「0917-1355/05/¥250/論文JCLS」は、1論文1回複写につき250円要することを明示したものです。これは表示のない論文等にも適用されます。JCLSへのご連絡の際には、筆頭著者名・論文名と併せて本表示をご提示くださるようお願いいたします。